

★学校教育目標	笑顔と優しさのあふれる、個性豊かな児童の育成	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		○対話的な学びの視点を取り入れた算数の授業改善による学力の向上 ○ステップ教室やリソースルームとの連携による特別支援教育の充実 ○ICT活用による協働型・双方向型学習の推進 ○挨拶の推進といじめを許さない学校づくり ○異年齢集団の活動の工夫による自主的・実践的な態度の育成 ○授業や遊びの充実による体力・運動能力の向上と健康づくり ○授業や遊びの充実による体力・運動能力の向上と健康づくり ○取組について、年度途中と年度末に調査を行い、指導改善に生かす
【めざす児童・生徒像】	やさしい子 かしい子 たくましい子(重点)	
【めざす学校像】	生き生きと個性輝く子供が主役の楽しい学校	
【めざす教師像】	魅力ある学級、やる気にさせる授業をデザインできる教師 子供と共に、自らも成長する教師 教育者としての高い見識をもつ教師	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
教職員・学校	確かな学力の育成	授業のユニバーサルデザイン・ひのスタンダードの視点による授業づくりを行う。	算数の授業のユニバーサルデザイン化についての校内研究を行い、全ての児童にとって分かりやすい授業づくりをする。	2	4 「算数において、『対話的な学び』の視点を取り入れた授業改善を図ることができた」と回答した教員が95%以上。 3 「算数において、『対話的な学び』の視点を取り入れた授業改善を図ることができた」と回答した教員が90%以上。 2 「算数において、『対話的な学び』の視点を取り入れた授業改善を図ることができた」と回答した教員が85%以上。 1 「算数において、『対話的な学び』の視点を取り入れた授業改善を図ることができた」と回答した教員が85%未満。	4	4 「算数の授業は分かりやすい」と回答した児童が85%以上。 3 「算数の授業は分かりやすい」と回答した児童が80%以上。 2 「算数の授業は分かりやすい」と回答した児童が75%以上。 1 「算数の授業は分かりやすい」と回答した児童75%未満。	授業参観から、算数に限らず、他教科においても、ペア学習やグループ学習で創造的な学びを実現している様子がうかがえる。今後は、子供の向き不向き等も考慮の上、実態に応じて『対話的な学び』を取り入れた授業改善を進めてほしい。	『対話的な学び』を取り入れた授業は、児童の理解を助けることができ、「算数の授業は分かりやすい」と回答した児童は85%を超えた。しかし、「『対話的な学び』の視点を取り入れた授業改善を図ることができた」と答えた教員は88%にとどまった。今後、『対話的な学び』について、具体的な活用場面や活用方法などを明確にしていく必要がある。
教職員・学校	特別支援教育の推進	児童の情報共有を進め、ステップ室、リソースルーム、巡回指導教員、スクールカウンセラー等との連携により、特別な支援を要する児童に適切な支援を組織的に行う。	個に応じた教材開発、指導を行うとともに、教員間の情報共有を積極的に進め、臨機応変に必要な支援が児童へ届くように、環境調整を行う。	4	4 「ステップ教室、リソースルームの教員と連携して指導にあたり、児童に良い変化が見られた」と回答した教員が85%以上。 3 「ステップ教室、リソースルームの教員と連携して指導にあたり、児童に良い変化が見られた」と回答した教員が80%以上。 2 「ステップ教室、リソースルームの教員と連携して指導にあたり、児童に良い変化が見られた」と回答した教員が75%以上。 1 「ステップ教室、リソースルームの教員と連携して指導にあたり、児童に良い変化が見られた」と回答した教員が75%未満。	4	4 「ステップ教室、リソースルームで学んで良かった」と回答した児童が85%以上 3 「ステップ教室、リソースルームで学んで良かった」と回答した児童が80%以上 2 「ステップ教室、リソースルームで学んで良かった」と回答した児童が75%以上 1 「ステップ教室、リソースルームで学んで良かった」と回答した児童が75%未満	児童の成長の様子から、ステップ教室、リソースルームによる個別指導の成果を挙げているように思う。今後は、さらにステップ教室、リソースルームの教員と、学級担任、特別支援コーディネーターとの連携を深め、指導の充実を図ってほしい。	児童、教員ともに、9割以上が「ステップ教室、リソースルーム」に好意的な回答をしている。「学習面、情緒面で成長できた」という声が、アンケートにも多く見られた。ステップ教室、リソースルームの教員と、学級担任、巡回指導教員、コーディネーターの打ち合わせ時間をどう捻出するかという課題は残るが、今後も連携を密にしながら、さらなる指導内容の充実を図る。
教職員・学校	ICT活用教育の推進	教員のICT活用指導力の向上を図る。	コンピューターを活用し、授業における児童の興味関心を高めたり、児童相互に学び合う場面をつくったりする。	4	4 「コンピューターを活用した授業を実施した」と回答した教員が80%以上。 3 「コンピューターを活用した授業を実施した」と回答した教員が75%以上。 2 「コンピューターを活用した授業を実施した」と回答した教員が70%以上。 1 「コンピューターを活用した授業を実施した」と回答した教員が70%未満。	3	4 「コンピューターを活用した授業は分かりやすい」と回答した児童が90%以上。 3 「コンピューターを活用した授業は分かりやすい」と回答した児童が80%以上。 2 「コンピューターを活用した授業は分かりやすい」と回答した児童が70%以上。 1 「コンピューターを活用した授業は分かりやすい」と回答した児童が70%未満。	タブレット端末等のコンピューターは、調べ学習では検索するツールに過ぎないとする。過信は禁物である。それを児童が興味し、いかに活用していくかが大切である。今後は、プログラミング教育も視野に入れ、コンピューターを活用して論理的思考力の育成を図ってほしい。	コンピューターを活用した授業実践例などを取り入れた教員向けの講習会を実施した。その結果、89%近くの教員が「コンピューターを活用した」と回答した。また、87%近くの児童が「分かりやすい」と回答しており、児童にとっても分かりやすい授業が展開されている。今後も教員研修を充実させ、児童相互に学び合う授業づくりを目指していきたい。
学校家庭地域・社会	人を大切にできる心の育成	思いやりの心を持ち、進んで挨拶ができるようにする。	定期的な挨拶運動や振り返りを行うとともに、学年に応じた学級指導を通して、教職員や外部の人に対する挨拶や、児童同士の挨拶を定着させる。	4	4 「挨拶の習慣が身に付くよう、児童へ指導するとともに、保護者会や個人面談などで保護者への啓発を行った」と回答した教員が85%以上。 3 「挨拶の習慣が身に付くよう、児童へ指導するとともに、保護者会や個人面談などで保護者への啓発を行った」と回答した教員が80%以上。 2 「挨拶の習慣が身に付くよう、児童へ指導するとともに、保護者会や個人面談などで保護者への啓発を行った」と回答した教員が75%以上。 1 「挨拶の習慣が身に付くよう、児童へ指導するとともに、保護者会や個人面談などで保護者への啓発を行った」と回答した教員が75%未満。	2	4 「児童はしっかり挨拶している」と回答した保護者が85%以上。 3 「児童はしっかり挨拶している」と回答した保護者が80%以上。 2 「児童はしっかり挨拶している」と回答した保護者が75%以上。 1 「児童はしっかり挨拶している」と回答した保護者が75%未満。	挨拶は、幼いうちから自発的に行うことにより、習慣化され、身に付くものである。現状では、児童の挨拶への意識は高まっている。取り組み指標は評価点を上回ったが、「児童はしっかり挨拶している」と回答した保護者が80%に届かなかった。昨年度と比べて成果指標に変化があまり見られなかったため、あいさつ週間への取り組み方を見直していく。	各学期に行ったあいさつ週間や代表委員会他によるあいさつ運動、各学年・学級の取組などを通して、児童の挨拶への意識は高まっている。取り組み指標は評価点を上回ったが、「児童はしっかり挨拶している」と回答した保護者が80%に届かなかった。昨年度と比べて成果指標に変化があまり見られなかったため、あいさつ週間への取り組み方を見直していく。
子供	人を大切にできる心の育成	思いやりの心を持ち、友達を大切にできるようにする。	思いやり週間や振り返りを行うとともに、学年に応じた学級指導を通して、互いを大切にし、いじめを許さない環境づくりを行う。	4	4 「相手を思いやる気持ちが育つよう、学級活動や道徳の時間に指導するとともに、いじめが発生した際には、保護者と連携をとりながら児童の指導にあたった」と回答した教員が85%以上。 3 「相手を思いやる気持ちが育つよう、学級活動や道徳の時間に指導するとともに、いじめが発生した際には、保護者と連携をとりながら児童の指導にあたった」と回答した教員が80%以上。 2 「相手を思いやる気持ちが育つよう、学級活動や道徳の時間に指導するとともに、いじめが発生した際には、保護者と連携をとりながら児童の指導にあたった」と回答した教員が75%以上。 1 「相手を思いやる気持ちが育つよう、学級活動や道徳の時間に指導するとともに、いじめが発生した際には、保護者と連携をとりながら児童の指導にあたった」と回答した教員が75%未満。	4	4 「友達を大切にすることができた」と回答した児童が85%以上。 3 「友達を大切にすることができた」と回答した児童が80%以上。 2 「友達を大切にすることができた」と回答した児童が75%以上。 1 「友達を大切にすることができた」と回答した児童が75%未満。	いじめについては、すぐに学校から家庭に連絡が入る等、学校は、早期発見、早期対応に努めている。いじめ防止には、孤立せず、身近に相談できる人がいることが大切である。今後は、人と人のつながりによる教育を進めてほしい。	各学期に思いやり週間を設け、いじめについての授業を行ったり、学年に応じた学級指導を行ったりしたこと、取り組み指標・成果指標ともに90%を上回った。また、「友達を大切にすることができた」と回答した児童も90%以上と、思いやりに対する意識の高さが読み取れる。今後は「友達」の定義を学級、学年、学校全体へと広げていけるようにする。
子供	特別活動の充実	集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築く自主的実践的な態度の育成を図る。	異年齢集団の活動（たてわり班活動、集会、ウィンターフェスティバル）を通して、コミュニケーションの力が高まるように、活動を工夫させる。また、教室から送り出すときに、その日のめあてなどを具体的に言葉掛けを行う。	4	4 「異年齢集団の活動において、コミュニケーションの高まりを意識して指導した」と回答した教員が90%以上。 3 「異年齢集団の活動において、コミュニケーションの高まりを意識して指導した」と回答した教員が85%以上。 2 「異年齢集団の活動において、コミュニケーションの高まりを意識して指導した」と回答した教員が80%以上。 1 「異年齢集団の活動において、コミュニケーションの高まりを意識して指導した」と回答した教員が80%未満。	3	4 「他の学年の友達とも協力して活動することができた」と回答した児童が90%以上。 3 「他の学年の友達とも協力して活動することができた」と回答した児童が85%以上。 2 「他の学年の友達とも協力して活動することができた」と回答した児童が80%以上。 1 「他の学年の友達とも協力して活動することができた」と回答した児童が80%未満。	たてわり班遊びを見ていると、上級生が下級生をさり気なく気遣い、みんなで遊びを楽しむ姿が見られ、好感がもてた。上級生が下級生の面倒を見るのが当たり前になっており、それが良き伝統として引き継がれているので、今後も大切にしていきたい。	今年度は、インフルエンザ流行で、たてわり班活動や集会などを中止したこともあったが、これまでの活動の積み重ねにより、スムーズに取り組ませることができた。低・中学年の児童が高学年の児童にあこがれ、高学年が下の学年を見つめるという校風が育ってきている。来年度は、10周年記念の児童を中心とした活動を工夫して盛り上げ、他学年の児童と協力するという児童の意識を、より高めていきたい。
子供	たくましく生きるための健康づくりの推進	授業や遊びの充実を通して体を動かすことの大切さや楽しさを実感させる。	主運動につながる体ほぐしや遊びの充実を図る。大学と連携し、授業改善や遊びの充実を図る。	4	4 「授業や遊びの中で、児童が体を動かすことが楽しいと思える動きかけを行った」と回答した教員が80%以上。 3 「授業や遊びの中で、児童が体を動かすことが楽しいと思える動きかけを行った」と回答した教員が75%以上。 2 「授業や遊びの中で、児童が体を動かすことが楽しいと思える動きかけを行った」と回答した教員が70%以上。 1 「授業や遊びの中で、児童が体を動かすことが楽しいと思える動きかけを行った」と回答した教員が70%未満。	4	4 「外で体を動かして遊ぶことは楽しい」と回答した児童が90%以上。 3 「外で体を動かして遊ぶことは楽しい」と回答した児童が85%以上。 2 「外で体を動かして遊ぶことは楽しい」と回答した児童が80%以上。 1 「外で体を動かして遊ぶことは楽しい」と回答した児童が80%未満。	低学年のうちから声を掛け、外遊びを推奨し、遊びの楽しさを味わわせたい。外遊びが苦手な子供に対しても、子供の実態に応じた動きかけが必要である。今後は、体育を専門とする学生ボランティアを導入し、休み時間や体育指導に活用してほしい。	教職員による児童への日常的な声掛け、複数回実施した運動週間、体育委員会の児童を中心とした外遊びの啓発、フラフープ等を自由に使える環境整備などを実施し、「外遊びが楽しい」と思える児童の割合が増えた。今年度は大学と連携しての授業や教員向けの研修も実施したが、学校全体での取組には至らなかった。来年度は大学との連携強化など内容面での充実を図る。